

「グローバルフェスタ JAPAN 2016」実施報告

■ 2016 年開催テーマ： for the First Step ～新しい目標に向かって～

■ 趣旨

「グローバルフェスタ JAPAN2016」は ODA を含む国際協力の現状や必要性、政府と NGO、市民社会、自治体、民間企業の協力についての理解と認識の促進などを目的に毎年 10 月に実施される国内最大級の国際協力イベント。2016 年は「持続可能な開発目標（SDGs）」がどのように私たちの生活に関わっているか一緒に考えることで、自分たちの課題として SDGs に対する理解を深めてもらう内容を多数採り入れて実施した。（外務省・JICA・JANIC 共催）

■ 開催日時：2016 年 10 月 1 日（土）・10 月 2 日（日）

■ 開催場所：お台場 センタープロムナード（シンボルプロムナード公園内）

■ 出展者数：269 者・団体

■ 来場者数：約 10 万人

■ 全体総括：予算削減の中、様々な工夫を実施することにより無駄を省き、ステージ出演者、共催者の著名人ネットワークを駆使することにより、例年規模のステージを実施し、来場者数も維持することができた。日比谷公園からお台場へ会場を移して 2 回目の開催ということで、テントの配置などを改善するなど初回の課題を反映させ、来場者が入りやすく回遊性を高める会場運営を行った。

《イベント報告》



オープニングセレモニー



バルーンリリースセレモニー



外務省写真展表彰式



エントランスアーチ

オープニングセレモニーでは、ゲストの倉木麻衣や広瀬アリスが登場し、「SDGs」の 17 のゴールをイメージした色とりどりの風船を、来場者と一緒に大空に飛ばし、会場を盛り上げました。

開会式に続き、外務省による特別企画、写真展「“誰も取り残さない” 世界を願って leaving no one behind」の表彰式を行いました。個人部門及び NGO 部門からそれぞれ上位 3 点を選出し、賞状と副賞（提供：オリンパス（株））が贈呈されました。同写真展では、世界各地で国際協力に取り組む人々から募集した 100 点近くの作品のうち、実行委員会によって選出された 73 点の作品を展示し、開発途上国の様子を来場者に紹介しました。

また、同写真展ブースに TICAD コーナーを設け、8 月にケニアで実施された TICAD VI の成果を写真とパネルで報告し、来場者から多くの反響をいただきました。



個人部門最優秀賞
「ポリオのない
世界を目指して」



この部門最優秀賞
「これが私の宝物」



外務省×オリラジステージ



外務省×ルー大柴ステージ



SDGs ワークショップ



会場の様子

初日のメインステージにはオリエンタルラジオが登場し、国際協力をテーマにしたクイズを通じて、来場者に日本の途上国支援について楽しく紹介しました。

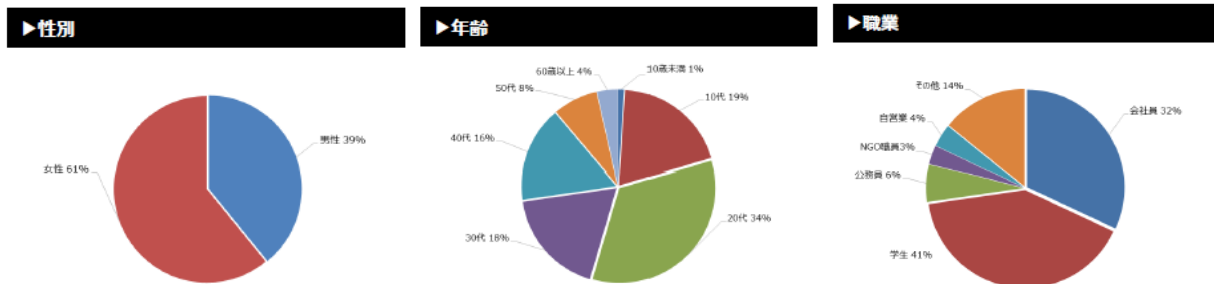
二日目には、イベント協賛企業が取り組む途上国の支援活動を、ルー大柴や来場者に体験してもらい、開発協力における民間企業の活動について発信しました。

その他、大学生によるアフリカン・ファッションショーやケニア人女性シンガーと TICAD VI 大使によるアフリカについてのミニトークショー、SDGs が私達の生活とどのように関わっているかクイズ形式で考えるワークショップなどを実施しました。

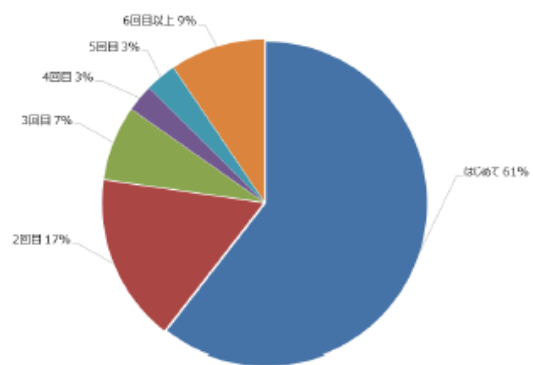
《アンケート結果》（計 506 名）

開発協力に関し、若者へのリーチが難しいと言われる中、10 代及び 20 代が 53% を占め、30 代を入れると来場者の 7 割強が若い世代であった。更に、学生は 4 割、会社員は 3 割と、業界関係者以外の層の多くの来場があった。

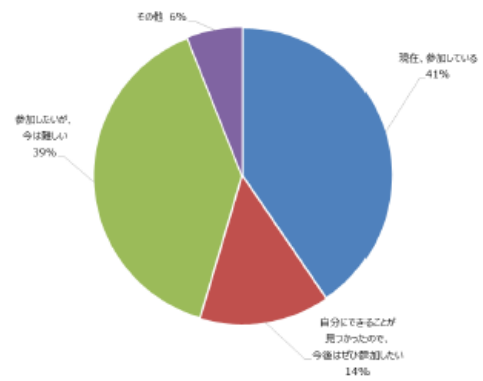
また、6 割が初めてグローバルフェスタに足を運び、2 回目の来場者を入れると 8 割弱にのぼる。国際協力の参加者の裾野を広げるという観点から、お台場という立地により、これまで国際協力にあまり接したことがない層にアピールできたといえるのではないかな。



▶3. 当フェスタに来られたのは何回目ですか？



▶4. 国際協力活動に参加していますか？



(了)